小松市立学校PTA連合会

PTAだより

第86号

子どもたちが夢を描き行動できる環境構築　～ 家庭・学校・地域の連携と郷土への更なる関心 ～

＜市P連事務局＞

〒923-0927 小松市西町25番地
小松市立芦城小学校内

TEL (0761)23-2478
FAX (0761)23-0902
E-mail pta@kec.hakusan.ed.jp
ホームページ www.hakusan.ed.jp/~kcpta/
Facebook www.facebook.com/kcpta

平成28年9月30日発行
市P連広報委員会

小松市立学校PTA連合会
会長 岡田 直樹

『心のあり方』を再度見つめ直す

皆様にはＰＴＡ活動にご支援とご協力、そしてご理解を賜り心から感謝申し上げます。「躾と教育」について、小松市立学校ＰＴＡ連合会会長になってから一つの課題として取り組みをしております。今年に入り、北海道でのことが報道され、今一度家庭においての「躾」について考えなければならない機会として捉えております。

子ども達は親の行動や態度を見て主な考え方や基準にしていると思います。１日の大半は学校で過ごしますが、学校生活での対応能力は家庭での過ごし方や家族の関係性が大きく関わっていると考えます。生活リズムや家庭でのルール、子ども達への接し方など重要になります。そのことを踏まえて、我々親は子ども達の「躾」についてどのように取り組みをしていかなければならないのか、今一度考えてみる必要があるのではないでしょうか。

昨年もお伝えしましたが、常識とは価値観、知識、判断力のことであり、客観的に見て当たり前と思われる行為のことを言い、その反対が非常識になります。捉え方により常識と非常識は紙一重であり、非常識と一般的に言われることも考え方、価値観で独自性があると言われます。『心のあり方』一つで、見え方や行動が変わり、心に余裕が生まれてくると思います。親が実践をし、子どもに伝えることが本来の「躾」ではないでしょうか。私たちは日常で間違いを間違いだよと言えないこと、言わないこともあると思います。日本人ならではの美意識的なことと言えるかもしれませんが、後であの時言っておけばとならない考え方をしっかりと養わなければならないと考えます。そのことが、子ども達の「躾」としても必要ですし、保護者も共に学んでいく必要があるのではないかということを考えてみてはどうでしょうか。

『心のあり方』を再度見つめ直す ということを少しでも実践すると、今以上に子ども達の自信とやる気が芽生え、更にグローバル化が進む未来へと力強く羽ばたくことに繋がっていくと思います。

【すべては子どもたちのために】を合言葉に、保護者の皆様の受け皿となるよう小松市立学校ＰＴＡ連合会は活動していきますので、更なるご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成28年度 市P連組織

◎ 委員長　○ 副委員長　● 校長

顧問
鹿田 稔夫
齋藤 浩（芦城中）

会長
岡田 直樹（犬丸小）

監事
吉田 淳也（月津小）
丸山 直輝（粟津小）

会計
池田ますみ（符津小）

石川県PTA連合会 副会長
道場 幹雄（串 小）

副会長
園井 肇（芦城小）

特別委員会
◎江口 柿田陽一郎（稚松小）
○西田 城下 信也（丸内中）
中井 泰孝（犬丸小）
中森 道場 貴至（今江小）
奥 幹雄（串 小）
清明 健文（能美小）
充 中井 泰孝（犬丸小）
稚松小 中海中 能美小 犬丸小 今江小 串 小
●堀田花菜子（串 小）
池田ますみ（符津小）
岡田 里美（第一小）
嶋多 直子（第一小）
丸山佳世子（日末小）
番田 由佳（南部中）
竹島 清美（芦城中）

副会長
竹島 清美（芦城中）
番田 由佳（南部中）
丸山佳世子（日末小）
嶋多 直子（第一小）
岡田 里美（第一小）
石川県PTA連合会家庭教育委員

母親委員会
◎堀田花菜子（串 小）
○忠谷 千鶴（丸内中）
○村田 千穂（波佐谷小）
池田ますみ（符津小）
A奥 さおり（犬丸小 グループリーダー）
C山本 尚美（矢田野小）
B中村真奈美（串 小）
D南出 麻希（芦城中）
●林 眞理恵（荒屋小学校校長）

副会長
柿田陽一郎（丸内中）

新世代委員会
◎阿戸 谷 俊秀（国府中）
○岩木 野村 昌慶（安宅中）
川西 松本 学（芦城中）
寛明 康彦（御幸中）
賢一（松陽中）
大間 桝井 浩一（松東中）
中田 優（板津中）
●石田 恵一（御幸中学校校長）

副会長
城下 信也（稚松小）

豊かな心を育む委員会
◎的場 賢弘（那谷小）
○堀 川東 和男（東陵小）
川嶋 江幡 尚哉（矢田野小）
康弘（粟津小）
純（国府小）
竹田 広樹（西尾小）
沢田 武久（蓮代寺小）
乾 大亮（符津小）
●山口 満（中海小学校校長）

副会長
中井 泰孝（犬丸小）
石川県PTA連合会代議員

広報委員会
◎出渕 順一（日末小）
○宮元 公彦（苗代小）
谷口 和也（向本折小）
得田 恭平（犬丸小）
橋 紀伊（今江小）
松下 正樹（金野小）
●中村 健司（犬丸小学校校長）

副会長
奥 貴至（今江小）

総務委員会
◎野村 佳史（中海小）
○佐伯 知泰（荒屋小）
上玉利 賢（安宅小）
可貫 幸夫（木場小）
今江 嘉雄（串 小）
北出 克美（月津小）
朝里 善治（第一小）
村田 正博（波佐谷小）
●西村 達矢（西尾小学校校長）

副会長
竹島 清美（芦城中）
番田 由佳（南部中）
丸山佳世子（日末小）
嶋多 直子（第一小）
岡田 里美（第一小）
石川県PTA連合会家庭教育委員

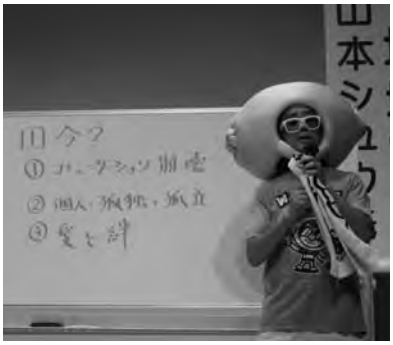
母親委員会
◎堀田花菜子（串 小）
○忠谷 千鶴（丸内中）
○村田 千穂（波佐谷小）
池田ますみ（符津小）
A奥 さおり（犬丸小 グループリーダー）
C山本 尚美（矢田野小）
B中村真奈美（串 小）
D南出 麻希（芦城中）
●林 眞理恵（荒屋小学校校長）

石川県PTA地区別研究指定発表会

第59回小松市PTA研究大会

日時：平成28年8月7日（日）　場所：こまつ芸術劇場うらら

今年の研究発表は国府中ＰＴＡ、今江小育友会、木場小育友会の３校で、いずれも特徴のある素晴らしい内容でした。講演会では「心でつながろう！学校・家庭・地域」と題しまして、「レモンさん」こと山本シュウ氏が子育てのヒントについて、熱くテンポ良く語ってくださいました。



講師：山本シュウ 氏（ラジオDJ）

小松市教育委員会表彰

吉田 淳也 様・丸山 直輝 様
竹島 清美 様・番田 由佳 様

小松市立学校PTA連合会会長感謝状

北川 章平 様・髙島 一子 様・北村美恵子 様
笠間 利美 様・能美校下わがまち防犯隊 様

国府中学校

第59回小松市PTA研究大会を終えて

国府中学校ＰＴＡ 会長　谷　俊秀

小松市ＰＴＡ研究大会が開催されるにあたり、国府中学校ＰＴＡでは「地域とのふれあい環境づくり」をテーマに活動報告、研究発表を行いました。

このテーマは高齢化が進んでいく国府地域の現状を踏まえ、国府地域をもっと活気あふれる魅力ある地域にしていくことができないか、これを中学生と一緒になって活動していく取り組みはないものかということを、昨年度より実行委員会を立ち上げて議論してきました。そして、まずは国府地域の１４町内会の協力を得て高齢者アンケートを実施させていただき、今の国府地域の現状（日頃困っていること、中学生の印象、将来に期待することなど）を調査することとしました。その結果を踏まえ、中学生とともに実行可能な取り組みはないかを議論し　①「あいさつ運動の実施」、②「国府の歴史・文化を知る」を実践していくこととなりました。①「あいさつ運動の実施」については早朝の通学路であいさつ運動を展開。また②「国府の歴史・文化を知る」では文化祭において昔の国府にまつわる写真や品物を展示させていただき、どちらの活動も良い評価をいただきました。

今振り返ってみますと、ここまで来れたのも何度も何度も実行委員会メンバーが夜な夜な「とある場所？」に集合し、そして夜遅くまでどのような取り組みが良いのかを議論を繰り返してきた結果だと思います。一時期はどうなるのかと不安もよぎりましたが、メンバーそれぞれの得意分野を最大限生かし、それが形となって見えてきたときは、本当によくここまでたどり着いたものだと、とても感慨深いものがあります。

ただし、どちらの活動も始まったばかりであり、この研究大会を終えたこれからが本当に大事な取り組みになると思っています。まだまだ、発展途中ではありますが、ここまでご協力いただいた各町内会の皆さんに感謝を申し上げるとともに、生徒と一緒になってこれからもこの地の期待に応えられるよう頑張っていきたいと思います。

今江小学校

小松市PTA研究大会を終えて

今江小学校育友会 会長　橋　紀伊

今年は今江小学校が発表校ということで『今江愛』をテーマとさせて頂きました。今江小学校は一町一校下ですので育友会活動に対する保護者の熱意が高く、町民の方々からは子ども達を『町の宝』として接して頂いております。しかし、私たち自身はあまり自覚がなく自然と当たり前のように子ども達に対して活動していることにどうしてそうなのか、いろいろな方向から分析を行って、どのようにして『今江愛』が自然に脈々と親から子へまた子から孫へ受け継がれているのかを、研究発表させて頂きました。調べれば調べるほど歴史があり、町民の方々からの愛情で親子共々育てられていることを知ることができ、当初あまりの内容の多さに発表の時間内ではおさまりきれない量でしたが（笑）役員がリハーサル前日までになんとか仕上げました。それほどまでに一つ一つの活動を大切にしている証だとしみじみ気付かせて頂きました。だから、自然と親とのコミュニケーションもとれ、当たり前のことのように町を思い子どもらしい心豊かな子に育っているのだと思いました。

最後になりますが、この発表が無事に終えることができたのも、この発表にあたり今江小学校らしくさせていただくことをご了承いただき応援して頂きました市Ｐ連の岡田会長、今江小学校育友会を温かい眼差しで見守って下さっている校長先生を始めとする先生方、役員を始めとする保護者の皆様、町民の皆様のご支援、ご協力があってこそだと思っています。深く感謝を申し上げます。有難うございました。

木場小学校

研究大会を終えて

木場小学校育友会 会長　可貴　幸夫

私たちは、昨年度に決めた「～つなげよう！　家庭・学校・地域の輪～」というスローガンのもと、役員が一丸となって育友会活動を行ってきた内容について、発表を行いました。

私は、昨年度は副会長で、翌年は会長が決まっていましたが、育友会活動が初めてで何もわからず、役員や先生、地域の方々とがむしゃらに育友会活動を行い、一年がすぎたような気がします。また、研究発表については、そのうち誰かがやってくれるだろう・何とかなるだろうと、安易に考えていました。結局、今年度になり慌てて作ることになりましたが、昨年度の活動が土台にあったことや、５・６月の週末連日のように打ち合わせを行った役員のおかげで、何とか発表に間に合うことができました。

発表を振り返ると、育友会行事が本当に盛んだなあと思いましたが、米づくりやその他の育友会行事が、学校の重要な行事の一つであることを再認識することができました。そして活動・行事を行うには、育友会や学校の力だけでなく、地域のサポートが不可欠です。地域の協力をいただくと、良いところ・悪いところのように「地域の指導が熱い」という感じになりますが、そこが良いところだと思います。今年度より米作りは地域の方々の手間を少しでも軽減するために、もち米からうるち米に替えました。しかし、合鴨農法は児童の希望で継続しています。今後も、木場校下の児童数は減少傾向となっていきますが、育友会活動をコンパクトにしながらも、児童の安心・安全、そして笑顔のために、これからも「～つなげよう！ 家庭・学校・地域の輪～」を続けて行きたいと思います。

最後になりますが、この発表を無事終える事ができたのは、先生・保護者・役員・地域の方々など、多くの皆さまのご支援、ご協力のおかげであると感謝しています。本当にありがとうございました。

第1回　母親委員会

日時：平成28年5月19日（木）午後7時より　場所：ホテル サンルート小松

母親委員会委員長
堀田花菜子

私たち母親委員会は、担当校長先生をはじめ各小中学校の母親代表３５名と役員７名からなるごくごく普通の母親で構成されています。そして、各４グループに分かれて研修をし、共にいろいろなことを学び合い意見交換しています。この活動から普段忘れてしまっていたり、見落としてしまっているようなことに改めて気づくことができるのではないかと思います。そして、研修結果を各グループごとにまとめ報告書を発行しています。また、１１月にあります「早寝早起き朝ごはん運動」小松市民大会で発表することになっています。皆様に活動の成果を見ていただき、母親委員会がどんな活動をしているかを知っていただける良い機会となると思いますので、より多くの方々にお越しいただけると幸いです。

相手の気持ちを考えて

小松市立荒屋小学校
校長　林　眞理恵

みなさんは、落ち込んでいるときにかけてもらった一言で、癒され元気になり笑顔に戻れた経験はありませんか。

言葉は心の架け橋です。相手の気持ちを考えて、温かい言葉をかけると、自分の心も相手の心も温かくなり、安心して関わり合える温かな人間関係が生まれます。

言葉には、明るい気持ちになる言葉・暗い気持ちにさせてしまう言葉、勇気づける言葉・落胆させる言葉、安心や喜びを与える言葉・不安や悩みを与える言葉などいろいろな言葉があります。子ども達には、自分ならどんな言葉をかけてほしいか、相手の気持ちになって考えられる心の人に育ってほしいものです。

心が疲れている人に「がんばれ」の一言は禁句と言われています。ですが、目的に向かってまさに今、今まで培ってきたパワーを全力で発揮しようとしている人には「がんばれ」は、力をもらえる有効な言葉となります。同じ言葉でも、状況によって相応しい場合とそうでない場合があると言えます。

大人は、常に子ども達のお手本です。身近にいる親や教師が、日々子供に笑顔でかける温かなひと言の大切さを常に意識して、子ども達が相手の気持ちを考えた言動のできる人に育つよう、皆で見守っていきましょう。

読んでみまっし！

『たがのわ』

30年以上にわたって小児診療に携わってきたベテラン医師による、子育てや小児科受診の際のアドバイス集。これまで300回以上の子育て講演会を行ってきた著者が、はじめてポイントをまとめた一冊です。

（ご購入はアマゾンでお願いします。）

母親委員会広報担

広報リーダー　埴生　睦美（木場
鍋島　　類（能美
野村　典子（中海
吉村　花子（那谷

今年度は、私たちが担当させて
よろしくお願いします。

第2回　母親委員会

講師　多賀クリニック　院長

多賀　千之 先生

《プロフィール》
昭和 56 年に三重大学医学部を卒業後、小児科医としていくつかの病院に勤務され、平成 26 年に白山市で多賀クリニックを開業。「分かりやすい説明・質問できる雰囲気」をモットーに診療されています。50 歳を過ぎた頃から、これまでのご経験を生かし、「子育て」に関した講演会を積極的に行っておられます。

講演会①

6月7日（火）　午後7時より
空と子ども絵本館にて

子どもたちの心の中の“甘える壺”を満たすために

アンケートより

- 夫婦の間で「ありがとう」が言えるように努力していきたいです。
- いっぱいだっこしてあげたいと言える子育てをしたいと思います。
- 現在の子育てに少し自信がなかったのですが、今のままで大丈夫なんだと少し自信が持てました。
- 母はいつも笑顔でいますよ～。
- 子どもと１対１になる時間を、工夫して作っていかなければと思いました。

講演会②

7月2日（土）　午後2時より
第一地区コミュニティーセンターにて

思春期との対話

アンケートより

- 経験を語る、夢を語る→経験を語っても今の時代と違うし、と言われてしまう、、、。夢を語るために、夢を探さないといけないなと思いました。
- 子どもが話しかけてくれた時は、チャンスだと思って、ちゃんと子どもたちの話を聞いてあげることが大切だと思いました。
- 子どもに、いつも結論を言わなくては、という思いで聴いているつもりになっていましたが、それでは聴いている思いが伝わらないと分かりました。

～ 会長研修会でご講演頂きました石黒教育長からご寄稿頂きました ～

自分自身を見つめる力

小松市教育委員会　教育長　石黒　和彦

先日、子どもの頃に読んだ宮沢賢治の代表作「セロ弾きのゴーシュ」を読んでみました。子どもの私はこの童話がチェロのレッスンを受けた賢治自身の体験から生まれたことや“ゴーシュ”という言葉がフランス語であり、「不器用」という意味を持っているということなどその背景については全く知りませんでした。不思議で楽しい思いで読んだことを記憶しています。しかし、今回は作者の心の中の思いを想像し、いろいろなことについて考えながら読むことができました。その一つが子育てについてです。この童話の概要は次のとおりです。

ゴーシュは音楽団でチェロを弾く係りでしたが,演奏が下手でした。ある日、ゴーシュは楽長に叱られ、町はずれにあるこわれた水車小屋の家で練習をつづけました。毎夜、三毛猫やかっこう、野ねずみなどの動物がゴーシュを訪れ、話しかけます。ゴーシュは動物たちと話しているうちに、自分自身が様々な存在に支えられていることに気づかされます。そして、オーケストラ仲間も驚くほどチェロの演奏が上達していきます。

私はこの童話の中で大事にされている「自分を振り返り、よりよい方向に向わせていること」に教育の原点を見るような気がします。

今日、社会の変化は予想以上の速さで進展し、加速さえしているようです。そして、その影響は子どもたちの生活にまで及んでいるのではないでしょうか。特に、不登校やいじめなどの問題行動の背景には教育問題や社会問題が集約されて含まれているため解決が難しい状況にあるように思われます。

教育で大事にしたいことはたくさんあります。その中でも私が最近、最も大事にしたいと思うことは「子どもたちが自分自身を見つめ、考える環境づくり」です。私たち大人は学力とか規範意識とか目に見えるものを教育の目的や成果とみなしがちですが、それらを子どもたちの体の中で創り出していくのは子ども自身の「心」なのではないかと思います。学びや道徳への思いが形だけ、口先だけのものになってはいけません。その意識が本当に深まっていき子どもの骨となり肉となっていくことが大切です。そのためには自分自身を見つめ直す環境の中で自分自身の振り返りと自己吟味、そして、自己の改善・向上への努力に結び付けていくプロセスが不可欠なのではないでしょうか。

ゴーシュはチェロをうまく弾けないという悩みを持ち、周りからそのことを指摘されました。彼は弱いものにあたりちらし傲慢な態度をとってしまいますが，彼らの話を受け入れながら素直さや優しさの大切さを学んでいきます。このようなプロセスが教育や子育てにはなくてはなりません。子どもを育てるのは大人の大事な役割です。童話の中に登場する動物たちのように子どもに寄り添い，励ましながら、どんな力を持っているのかを見つけ、どんな力を付けさせていくのかを考えながら、その方向性を指し示していくことが教育や子育てでは大事なことだと思います。

今年１月に「『次世代の学校・地域』創生プラン」が策定されました。「次世代の学校・地域創生の実現」とは地域と学校や様々な関係団体が連携し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え合う教育環境をつくるということだと理解しております。小松市の教育が小松市立学校ＰＴＡ連合会の皆様方とさらに連携を深めながら、より充実していきますことを心から願っています。

単Pだより 那谷小学校

豊かな自然と歴史に囲まれた那谷校下

那谷小学校育友会　会長　**的場　賢弘**

私達、那谷小学校育友会の特徴的な活動として挙げられるのは、地域の方々にも愛されている鞍掛山の「親子登山」です。この行事の歴史は古く、今保護者である私達が子どものとき、保護者と一緒に登った思い出があります。調べてみると、昭和５４年の広報誌には「鞍掛山登山」の記述があり、少なくとも３７年前から続いている伝統ある育友会行事です。

今年は、５月２１日土曜日に行い、児童２９名、保護者２５名、教職員９名の参加がありました。１年生児童もお父さんやお母さんに励まされながら、全員無事に登頂しました。下山して閉会式の後、ジュースと共に俳句の用紙が配られ、子ども達は自宅で、保護者と共に川柳をひねります。「手をつなぎ、こわいところもへっちゃらだ」これは、２年生児童が詠んだ川柳です。

鞍掛山親子登山を通して、この俳句のような親子の温かい触れ合いが生まれたり、子どもと保護者、また保護者同士のつながりがより深まったりすることを願い取り組んでいます。さらに、ふるさとを愛する心、地域の伝統を守る心を育てることにもつながっていくと考えています。

総務委員会はこの鞍掛山親子登山の他、春には育友会懇親会、飛出し君の設置や飛出し注意の足型書き、草捨て作業、校下の危険箇所の確認、夏には奉仕作業、秋には資源回収、飛出し君の回収、３月には送別会と、たくさんの行事を担当しています。育友会員２６世帯という小規模校のため、総務委員の人数は、組織の中で一番多い１１名で取り組んでいます。学級委員は、授業参観・学級懇談会のあと、話し合ったことをまとめた学級委員会だよりを毎回発行しています。また、親子レクレーションや教育講演会も担当します。保健委員会は、救急蘇生法講習会、学校保健員会を行います。参加者が増えるよう、授業参観の日に合わせて行っています。広報委員会は年２回、広報誌「くらかけ」を発行します。これらの委員会の他に、緑の少年団育成委員会があり、５・６年生の保護者は先述の委員とダブルヘッダーで、子ども達の緑の少年団活動のサポートを行っています。

那谷小学校育友会は、育友会全世帯が、毎年何れかの委員となることで、育友会活動が成り立っているのです。大変ですが、これからも子ども達の豊かな成長を願い、地域の皆さん、学校の先生方とも協力しながら、育友会活動を行っていきたいと思います。

単Pだより 金野小学校

創立60周年　歴史と文化の再発見

金野小学校育友会　会長　**松下　正樹**

【６０年の歴史に幕】

昨年金野小学校は創立６０周年を迎えました。児童数は５３人の小規模校です。小人数が故に複式学級が適用されるなど、多くの友達との学習・遊びの機会が少なくなってきています。そのため、平成３０年には、松東中学校下の３小学校（本校、波佐谷小学校、西尾小学校）との統合が計画されています。私も含めて、校下の人々にとって歴史ある学校がなくなるのはとても寂しい思いもありますが、時代の流れには逆らえませんし、子どもの教育環境を思えば、正しい選択だと納得しました。

【歴史ある郷土の再発見】

そんな金野校下の歴史を子ども達に伝える意味でも、昨年の石の文化の日本遺産の認定は、校下内にも石切り場や、鉱山跡、九谷焼の陶土など関連する場所も多くあり、歴史を再発見する良い機会になりました。

また、郷土の歴史について学ぶため、地域の老人会が作成した検定問題（金野検定）用いて、子どもと一緒にクイズ形式で勉強したりもしています。

【子供への文化の伝承】

保護者の世代から子ども達に伝えていく文化の一つとしては、「外遊び」ではないでしょうか。

我々の子ども時代は、ＴＶゲームはありましたが外で遊ぶ機会も多く、いろいろな遊びを友達と一緒にやっていました。そんな、「外遊び」の楽しさを今の子ども達にも伝え、少しでも外で友達と遊ぶ機会を作ってあげたく、今年度の育友会では「ケンパで遊ぼう」を企画し、育友会の親子奉仕作業の後、みんなで楽しみました。

保護者世代も記憶を辿りながら、地域毎のローカルルールもあり戸惑いながらも、子ども以上に盛り上がっていました。このような外遊びを子ども世代が次の世代にも繋いでいけるように、今後もいろんな遊びを伝えていきたいと考えています。

親子ふれあい体験バスツアー

北陸のハワイ「水島」リゾートとかまぼこ作り

豊かな心を育む委員会　委員長　的場　賢弘

今年のバスツアーは小学３年から６年までの親子を対象に４５組９０名の募集したところ、４５組９７名の方の参加申し込みがありました。

親子一緒に普段行けないところ、体験できないところ、見たことない景色が見られるところを委員会のメンバーで考え、小牧かまぼこ作り体験と無人島「水島」リゾート等の企画をしました。

当日は朝から晴天で絶好の海水浴日和。まずは小牧かまぼこで「かまぼこ」と「ちくわ」作りの体験。

子ども達のみの体験ということで大丈夫かなと思っていましたが、少し説明を受けただけで皆ちゃんと作れていたようです。

昼食はヨーロッパ軒の「ソースカツ丼」。大ボリュームで大人でもキツイ量でしたがペロリと平らげてしまう子もチラホラ。

いよいよメインの水島。しかし考えることは皆同じなのか、無人島どころか「人」だらけの島。二週間前にロケハンに行った時はこんなに人はいなかったのですが…。気を取り直し集合写真を撮って船で水島に向かいます。確かに人は多いものの、澄んだ水、きれいな景色「北陸のハワイ」なんて言われるのが分かりました。参加者の皆さんも思い思いに楽しんでいただけたようでした。

綿密な計画を練り、委員会のメンバーにしっかりサポートしてもらい、当日は完璧のはず…だったのですが、委員長の私の見込みの甘さと段取りの悪さのせいで予定が遅れてしまった事が最大の反省点です。申し送り事項として、来年以降の企画に役立てたいと思います。

最後に今回の企画を通じ、参加者の皆さん、ご協力いただいた関係者の方々、委員会のメンバーすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

参加した保護者の感想

◆子どもの喜んでいる姿を見ることができる大切な時間でした。子どもが何を思っているのか何をしたいのかゆっくりと話しができる貴重な体験です。

◆家族旅行とは違い息子と二人での参加は新鮮でした。特にちくわ作りは息子の不器用さが分かり普段から何もさせていない事に反省と共同作業が出来楽しかったです。

◆下の子（小１と２才）がいるので、今回は長男と２人で出かけることができ、私と子供にとって貴重な時間になりました。心配なく子供の喜ぶ顔を見ることができ何よりでした。

◆他の小学校の保護者の方々とも話をしたり、言葉を交わす機会があり、親としても実のあるツアーになりました。

◆知らない子とのコミニュケーションがはかれて子供もよい経験になったと思います。

参加した子どもたちの感想

◆ママとデートなんてとてもうれしかったです。

◆あたらしい友だちができたのでよかったです。

◆いつもちくわを作っている人はこんな作業をしているとわかりました。

◆ソースカツ丼の量にびっくりしました。食べられないと思っていたけど、ギリギリで食べられました。

◆バスにいっぱい乗っていたけど、トランプをしたり、おやつを食べたりして楽しめたのでよかったです。全部ほんとに楽しかったです。

◆（水島の）左右の砂のあらさがちがったのにびっくりしました。

◆ヤドカリやクラゲ、カニがたくさんいたのでびっくりしました。

◆いつもいかない所に友達や、お父さんや、他の学校の人たちと行けたのが良かったと思います。バスツアーは、他の人たちと交流出来る所がいいなぁと思いました。

編集後記

日々のＰＴＡ活動によって、親子共に『セロ弾きのゴーシュ』のようにいつの間にか成長していたと実感してもらえる時があれば、とても幸せです。素敵な原稿をお寄せくださいました皆様、ありがとうございました。

広報委員長　出渕　順一（日末小）

スタッフ
宮元　公彦（苗代小）・谷口　和也（向本折小）
得田　恭平（犬丸小）・橋　紀伊（今江小）
松下　正樹（金野小）・中井　泰孝（犬丸小）
中村　健司（犬丸小学校校長）